

婦人の家 タイムズ Times

第81号

2年8月発行
牧之原地区センター
(農村婦人の家)

生き生きサロン活動再開



新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除され、婦人の家でも少しずつですが、健康づくりグループのダンベルの会とのぞみの会の活動も再開されました。

お年寄りの皆さんも活動自粛のため、引きこもったり、体力低下のため、病気やケガなどが発生し、悪循環になっていることから、牧之原生き生きサロンでも思い切って活動を再開することにしました。



7月15日(水)「お楽しみランチタイム」と称して、食事とおしゃべりを楽しみました。午前11時から2時間だけ、3密を回避しながら23の方が出席しました。会員の皆さんは、ちゃんとマスクをしてきて、市役所危機管理課から避難所用ボックスの中の非接触体温計をお借りし、ひとりずつ体温を測りました。久しぶりに会う友達とたくさんお話をし、近況報告をし、何といてもみんなとの食事は格別だったようです。午後1時楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまいました。名残惜しうでしたが、9月の活動を楽しみにお互いに活力をもらったようです。



今後の予定

- ★ 8月1日(土) 婦人の家の外掃除
8:00~10:00 (利用委員、下区班長)
- ★ 9月16日(水) 生き生きサロン レクリエーション講座
講師 社会福祉協議会 宮崎生活支援コーディネーター
13:30~ 婦人の家
- * 毎年予定していました 子ども会お楽しみ体験旅行は新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となりました。

みんなで実践「新しい生活様式」

緊急事態宣言は解除されましたが、ワクチンや治療薬は確立しておらず、今後第2波、3波の感染拡大が起こることが予想されます。これからは「新しい生活様式」のスタイルを実践し、イベントや各グループの活動、会議等をすすめていきましょう。

”新しい生活様式”

①一人ひとりの基本的感染対策

- ・人との間隔は、できるだけ2m(最低でも1m)は空ける。
- ・外出する場合、マスクを着用し、屋内より屋外を選んで遊びに行く。
- ・感染が流行している地域への移動は控える。
- ・家に帰ったら、まず手洗い、うがいをし、速やかに着替える。

②日常生活での各場面別の生活様式

- ・買い物は、一人または少人数で空いた時間に行く。
- ・公共機関の利用は、混んでいる時間を避け、徒歩、自転車利用も活用する。
- ・食事はデリバリーやテイクアウトを利用し、大皿は避け、料理は別々にする。
- ・冠婚葬祭は、多人数での会食は避け、発熱や風邪の症状がある場合、自粛する。

③働き方の新しいスタイル

- ・テレワークやローテーション勤務、時差出勤。
- ・対面での打ち合わせは、マスクを着用し、換気を行う。

地区センターを利用するうえで、会議や研修会を開催する場合、名簿の提出だけでなく、主催者用と当日の参加者用のチェックシートの実践もお願いすることになると思います。利用申し込みをする時に、個々に説明させていただきます。ご協力をお願いします。



避難所用ボックスと換気用扇風機配置

風水害が発生しやすい季節となり、住民の生命を守るため地区センターを指定避難所として開設していますが、新型コロナウイルス感染症が収束していない中、避難所を開設するために、感染症対策が必要となります。各地区センターに必要な物品を市役所危機管理課より配置していただきました。

(1) 避難所用ボックス

中身①非接触型体温計②フェイスガード

③ビニール手袋④マスク⑤ウエットティッシュ

⑥ペーパータオル⑦避難所用利用者名簿

(2) 換気用扇風機

* 普段でも使用していただいてもかまいません。

